

上田安子服飾専門学校

学校関係者評価報告書

(令和3年度)

学校法人上田学園
上田安子服飾専門学校

I.学校法人上田学園 上田安子服飾専門学校 学校関係者評価報告書について

学校法人上田学園は、平成20年に、学校自己評価制度導入を図るために、自己点検部会を設立し、組織的な体制を築きました。その後、平成23年度より「学校自己評価報告書」を取りまとめ、平成24年度より本学園のホームページ上に公表しております。

また、平成25年度からは、本校に関係の深い方々からご意見等を頂戴し、今後の学校運営に反映させ、改善を図るべく「学校関係者評価」を実施しております。学校関係者評価委員会では、外部の視点に立った、多くの貴重なご意見、ご指導を賜り、改めて学校関係者評価の重要性を認識した次第です。ここに学校関係者評価の内容についてご報告いたします。

今後もより良い学校運営、教育活動を目指し、教職員一同尽力して参りますので、関係者の方々をはじめ皆様の、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学校法人上田学園 理事長 上田哲也
上田安子服飾専門学校 校長 田島 等

「学校関係者評価」の実施について

今回の学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に則し実施した「令和3年度学校自己評価報告書」に基づき、3名の学校関係者評価委員の方々に評価して頂きました。

その内容等について要約の上、以下のとおり報告いたします。

II.令和3年度上田安子服飾専門学校 学校関係者評価委員会開催概要

1.日時

令和4年10月15日(土) 10:00~12:30

2.場所

上田安子服飾専門学校本館

3.議事

- (1) 令和3年度自己点検・評価報告書の概要説明
- (2) 令和3年度事業報告書に基づき内容の説明
 - ・産学官連携事業について
 - ・国際交流について

4.出席者

- ・企業関係者・卒業生 日比吉彦 関西整染株式会社
- ・地域関係有識者 三島 保 大阪市北区商店会総連合会 副会長
- ・教育関係有識者 池田 知隆 一般社団法人大阪自由大学理事長
- ・事務方 校長 田島 等

事務統括 小西 祐司

副校長 山田 浩之

副校長 東山 幹子

副校長 福田 新之助

ファッションクリエイター学科、ファッションクリエイターアドバンス学科、

ファッションクリエイター夜間学科学科長 大槻 剛

ファッションビジネス学科学科長 塩田 千織

ファッションプロデュース学科学科長 高木 義隆

ファッショングラフィックデザイン学科、スタイリングフォト学科学科長 野田 光晴

学生部 部長 金森 晋一

5.配布資料

- (1) 学校関係者評価委員会構成
- (2) 令和3年度 上田安子服飾専門学校 自己評価報告書
- (3) 令和3年度 上田安子服飾専門学校事業報告書(抜粋)

III.外部評価委員からの評価と提言

自己評価報告書と添付資料に見る本校の教育の現況等について学校から説明を行い、これに対する評価・提言を外部評価委員に求めた。自己報告書全体を説明するとともに、

ガイドライン項目3 - 教育活動

ガイドライン項目4 - 教育成果

ガイドライン項目6 - 教育環境

ガイドライン項目10 - 社会貢献

についてとくに意見・提言があった。

この4項目についての学校側の説明要旨と外部委員の評価・提言は以下のとおり。

○ ガイドライン項目3 - 教育活動について

【学校の説明要旨】

・資料をもとに各学科の産官学連携プログラムについて報告した。

クリエイター、クラフト「もの作り分野」の連携に関しては事業の事前または事後に素材産地の見学を必須としている。またビジネス系の連携に関しても素材産地の見学・商品企画提案のプログラムが実現した。

【外部評価委員からの評価と提言】 ⇒部【本校担当者からの回答】

● ファッション・プロデュース学科

・コロナ禍において延期した海外研修を含む教育プログラムの実施について何か工夫したことはあるのか。(日比委員)

⇒各学年1回ずつの海外研修を設定しているが次年度は2回となる予定である。現地リサーチの準備を充実させるとともに燃油サーチャージ等の学生負担を軽くするための補助を計画している。産学協同プログラムに関してはリモートによる授業を活用した。

● ファッションクリエイター学科

・2年生のHEPファイブでのポップアップショップは商品企画から製作まで一貫した内容で評価できる。トップクリエイター学科以外の学生も消費者からの評価を体験できるいい機会なので継続して欲しい。(日比委員)

・滋賀県高島縮織物との企画は、伝統織物を現在の若者の感性で再生させるというおもしろい内容だ。(池田委員)

・スポーツファッションの「フィッシング・ベスト」は新しい取り組みだ。スポーツの枠はどのように考えているのか。(日比委員)

⇒従来、フィッシング用品を生産していたメーカーからファッション性の高いアパレル商品が発表され、若者を中心にブームとなっている。コロナ禍の影響でキャンプ、アウトドアの流れは加速しており、この分野についても研究していきたい。

● トップクリエイター学科

- ・「パリ・ファッションウィーク」の発表を現地で実施したがどのような工夫をしたのか（池田委員）

⇒学生 36 名が参加し現地ではたいへん歓迎された。毎日の検温や少しでも体調が不安な学生は休ませるなどして感染対策・健康管理に十分留意して実施できた。ここで得た経験・データは今後にも活かしていきたい。

● ファッションクリエイターアドバンス学科、ファッションクリエイター夜間学科

- ・入学生の確保に向けた取り組みはどうか。（三島委員）

⇒アドバンス学科は大学等とダブルスクールで入学を希望する学生も多い。学業の両立について説明できる教員が説明にあたっている。夜間学科については夜間に独自の説明会・授業見学を実施して少人数で学べる利点等について説明している。

● ファッションクラフトデザイン学科

- ・イタリア研修について学生の反応や成果はどうだったのか。（日比委員）

⇒フィレンツェの連携校である Palazzo Pucci 校と本校のファッションクラフトデザイン学科のインターンシップの承諾を得られるようになり、イタリアのシューズ・バッグ工場、ハイブランド製造工場などで働ける道筋ができています。コロナ禍での研修が実施できた経験を踏まえ、カリキュラムの移行などに柔軟に対応できる体制を整えたい。

● スタイリングフォト学科

- ・就職先の開拓についてはどうか。（日比委員）

⇒従来のカメラマン、カメラスタジオのみならず写真を活用したグラフィック分野への就職に向けた教育プログラムにシフトしつつある。この分野への就職先開拓にも努めたい。

● ファッションビジネス学科

- ・播州産地との取り組みは新しい。評価はどうか。（池田委員）

⇒クリエイター系学科が長年お世話になっている兵庫・播州産地との取り組みは、従来業界の川下との連携のとどまっていたビジネス学科にとって新しい取り組みであり、教員・学生にとって新鮮であった。こういった川上の業者との連携をとおして商品企画等の教育プログラムに活かしていきたい。

○ ガイドライン項目 4 - 教育成果について

【学校の説明要旨】

- ・資料をもとに各学科の休・退学率、就職率、就職先データについて報告した。

【外部評価委員からの評価と提言】

- ・コロナ禍において対面学習・リモート学習のバランスや工夫した点はどうか。

(日比委員)

⇒リモート学習のために制作した動画教材等が体調不良・登校停止の学生の補助となつているとともに、登校できている学生への補助教材ともなっている。「グーグルクラスルーム」の活用に教員・学生も慣れてきており、今後も ITC を利用して教育の質を高めていきたい。

○ ガイドライン項目 6 - 教育環境について

【学校の説明要旨】

- ・事業報告書に基づき、ITC 環境や教室の整備等について説明した。

【外部評価委員からの評価と提言】

- ・ドレスルームの活用・評価はどうか。(三島委員)

⇒リアルな結婚式が減少もするなかで逆に記念写真の需要が増えつつある。スタイリングフォト学科とも連携して入学広報にもつなげていきたい。

○ ガイドライン項目 10 - 社会貢献について

【学校の説明要旨】

- ・JR 西日本との取り組みについて説明した

【外部評価委員からの評価と提言】

- ・感染対策に配慮しリアルショーが実施できたことは喜ばしい。今後、大阪市北区のイベントも再開されるので期待している。(三島委員)

○ ガイドライン項目 11 - 国際交流について

【学校の説明要旨】

- ・各学科の国際交流の実績について報告した。

【外部評価委員からの評価と提言】

- ・コロナ禍で得た経験を活かし、新しい海外連携の仕組みを構築して欲しい。

(池田委員)

以上であり、外部評価委員より示された提言については、所轄部署においてこれを踏まえ改善策を検討するものとする。その他の項目について自己評価報告書は適当であると認められた。

以上